

2.4.2 海輝による漂流ゴミ回収活動

1) 漂流ゴミ回収の実態

八代海北部海域を対象とした、環境整備船「海輝」による漂流ゴミ回収の実態を、回収活動が開始された平成 16 年度から平成 18 年度の 3 カ年度について、八代海を含め図 2.18～2.20 に示した。

図 2.18 によると、八代海の漂流ゴミの回収量は $195\sim 414\text{m}^3$ で、このうち北部海域が平成 16 年度 125m^3 (八代海全域の約 40%)、平成 17 年度 50m^3 (八代海全域の約 25%) である。なお、環境整備船「海輝」による漂流ゴミの回収エリアは、本来、八代海湾奥に当たる北部海域は対象となっていない。このため、平成 16 年度、17 年度における回収実績は、大量の漂流ゴミ発生により、「海輝」による漂流ゴミの回収の必要性が高かったといえる。

八代海で回収されたゴミの種類(図 2.19)は、萱・草、木材、木片、竹が多く、これ以外に発砲スチロールやビニール・プラスチック等が回収されている。この中から北部海域のみのゴミ回収量をみると、八代海全域とほぼ同様な傾向にあり、最も多い萱・草が平成 16 年度 73m^3 、平成 17 年度 34m^3 である。月別では、台風の襲来時期に当たる 9 月が多い。

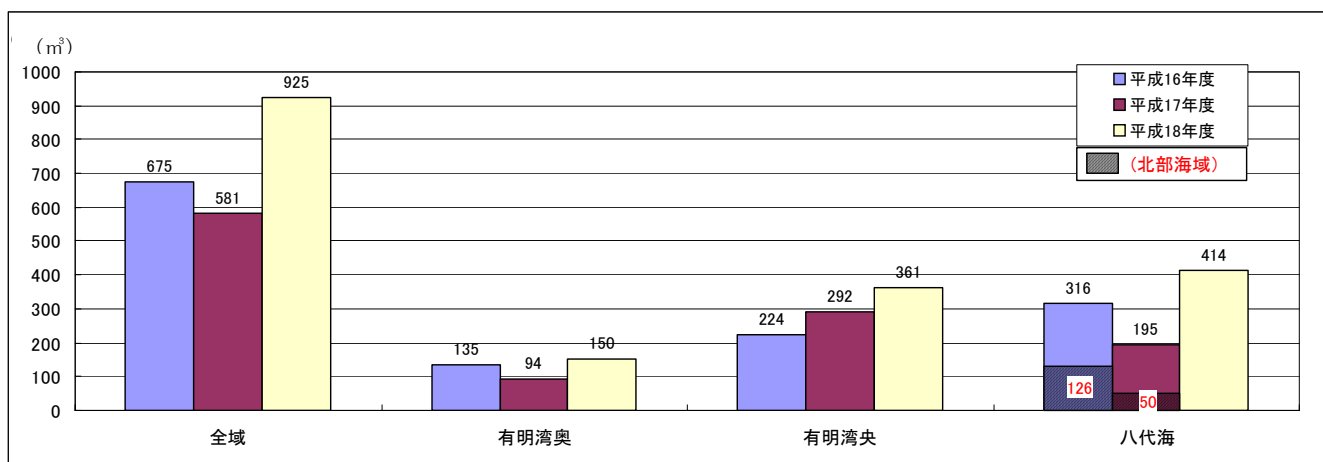


図 2.18 平成 16～18 年度の海域別の漂流ゴミ回収量の比較

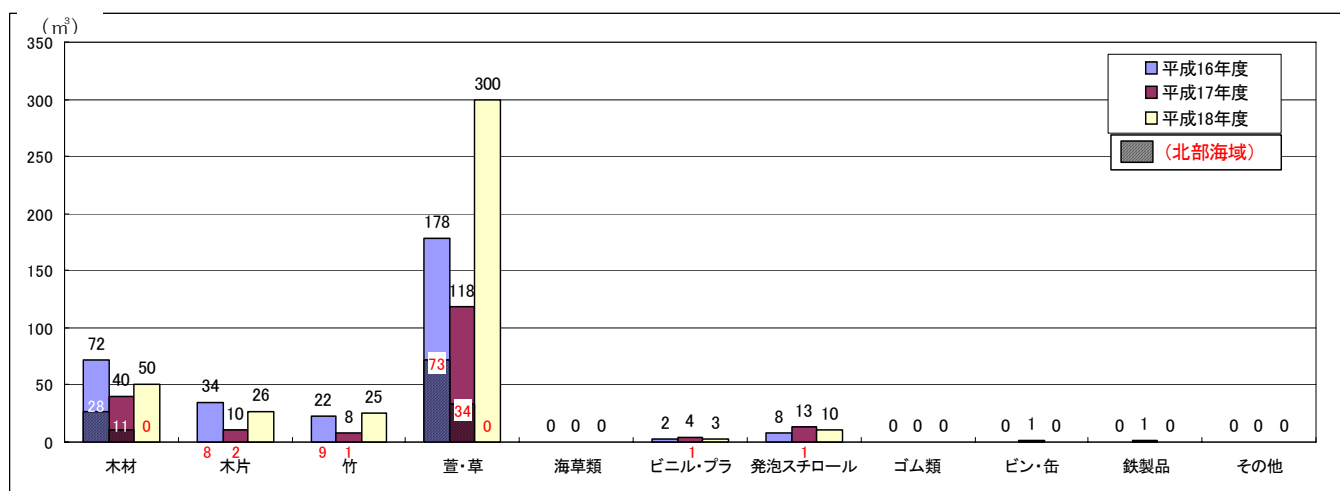


図 2.19 平成 16～18 年度の八代海の漂流ゴミ種別回収量の比較 (八代海全体及び八代海北部海域)

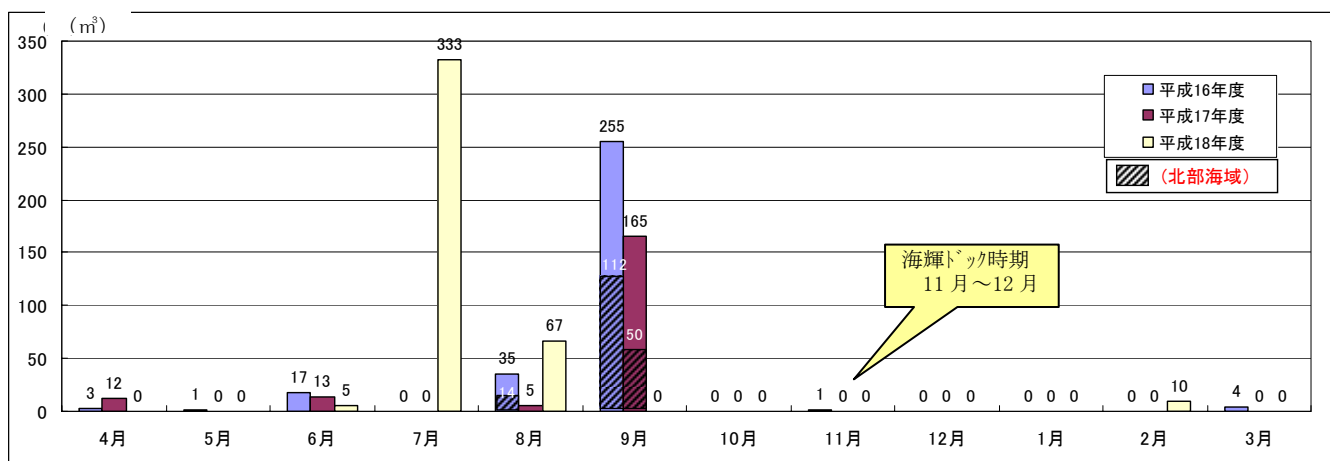


図 2.20 平成 16～18 年度の八代海の月別漂流ゴミ回収量の比較 (八代海全体及び八代海北部海域)

2) 異常ゴミ発生における連携活動

経緯：台風 14 号の影響により八代海に大量の漂流ゴミが発生した。八代海湾奥部は海輝が航行可能か検討していない海域であったため、地元漁民の要望もありゴミ回収の連携を図った。

場所：八代海湾奥部（鏡町沖）

回収量：15m³（木材・木片）

連携結果：漁港沖等の漂流ゴミを回収することにより漁業等に与える影響を軽減した。

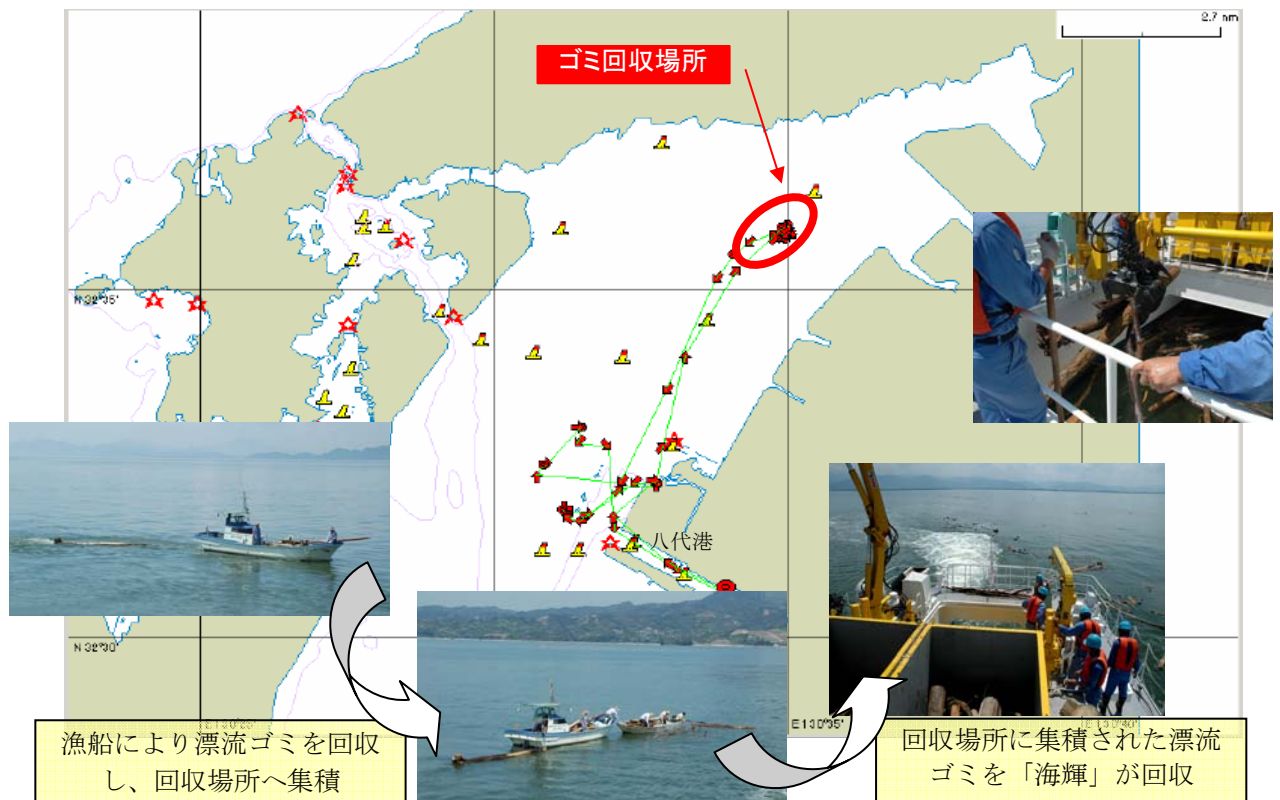


図 2.21 漁協との連携実績（平成 17 年 9 月 9 日）